

『日日は好日』

お茶が教えてくれた15のしあわせ』

森下 典子／著 新潮社（2008年）

「茶道」と聞いてどんな印象を持ちますか？難しそうと思うかもしれません。確かに茶道にはたくさんのルールがあります。その中でも、日常生活では考えられないルールがあります。それは、出されたお茶は音をたてて飲むこと。日常生活では音を立てて飲み物を飲むことはマナー違反とされています。しかし、茶道ではお茶は音をたてて飲み、それが飲み終わりの合図になるそうです。このように茶道を知りつつ、主人公が茶道を通して見つけた日常の幸せについて書かれています。



『お茶の科学』

「色・香り・味」を生み出す茶葉のひみつ』

大森 正司／著 講談社（2017年）

この本は、科学の視点でお茶について書かれており、普段目にする緑茶や紅茶などの色の変化の仕組みや、香りを生み出す成分、味を決める成分などについて知ることができます。お茶の味を決めている成分を知ることによって、普段飲んでいるお茶の味ももっと感じられるかもしれません。

さらに、お茶のおいしい淹れ方や、お茶の成分がもたらす作用についても書かれており、より一層お茶を楽しむ1冊となっています。



『しあわせ紅茶時間』

斉藤 由美／著 三笠書房（2023年）

自分で紅茶をいれて、ほっと一息つきませんか？そのためには、どうやって紅茶をいれるのか知らなくてははいけませんね。おいしい紅茶をいれるには、ティーポット選びがとても大切です。茶葉が上下にはずんだり舞い降りたりする「ジャンピング」がおこるように、丸型のポットを選ぶことがコツだそうです。他にもティーカップや茶葉の選び方、紅茶をいれる時のポイントがわかりやすく書かれています。また、紅茶の産地や歴史についても書かれており、本書を読むだけで紅茶について詳しくなれるでしょう。



『わび、さび、かわいい茶ガールの休日』

一品更屋の現代茶湯』

一品更屋／著 小学館（2011年）

茶道って、お茶は二がいし、お作法や正座が大変そうって思いませんか？高価なお道具や着物を着なくても大丈夫。無理せず、気軽に、自分なりにもっとかわいく楽しんでみる。それが「茶ガール」の精神です。お気に入りの場所で、季節を感じるお菓子と共にお茶を美味しく飲む。それだけでも何か特別を感じ楽しくなりませんか？でも、抹茶の分量やお湯をどれだけ入れれば？温度は？と思うけど、美味しくいただくコツも載ってます。えっ！こんな所でやっていいの？OKです。私もこれならできる！やってみましょう。ただし、かわいいを忘れないでね。



『ダージリンは死を招く お茶と探偵1』

ローラ・チャイルズ／著

講談社（2005年）



広告会社で働いていたセオドシアは、思い切って仕事を辞めてティーショップを経営することを決断しました。お茶の知識豊富な友人たちにも恵まれ、ティーショップの経営は順調です。そんなある日くらンプライター・ツアー>でお茶を提供することとなります。選りすぐりのお茶に参加者も大満足の様子でしたが、イベントも終わりに近づいたところカップを持ったまま亡くなっている男性が見つかります。イベントを手伝っていたベサミーが容疑をかけられ、セオドシアは殺人事件の解決に挑みます。

随所にお茶の豆知識もちりばめられており、お茶とミステリーを同時に楽しむことができます。

『占い日本茶カフェ「迷い猫」』

標野 凧／著 PHP研究所（2021年）

日本茶と占いの出張カフェ「迷い猫」を営む如月たんぽぽと相棒猫のつづみ。依頼の受付はいまどきの、SNSのダイレクトメールのみ。依頼があれば、全国どこへでも出張する。カフェのコンセプトは、現地の茶葉と水を必ず使うこと。予算が許せば菓子や器もその土地のものを使う。依頼主の希望を最大に聞き入れ、形式に囚われないが、その地、その人にあった最高のお茶を提供する。占い師の顔を持つたんぽぽは、訪れる客の悩みも聞く。お茶の腕前だけでなく、占いもよく当たると評判だ。このカフェは、「癒される」の全てが揃っているのではないだろうか。

